

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

日本の年金は、その期待された役割を果たしているのか

『日本の年金』

駒村康平（経済学部教授）著
岩波新書／886円（2014年9月）



少子高齢化や非正規雇用の増大など、日本の年金をめぐる社会や経済の環境は大きく変化している。これからの年金制度はどうなっていくのか。年金制度の現在の役割、将来の役割、そして今後の改革について述べている。

これまでの年金改革の歴史や欧米諸国との比較を通して、現行制度が直面している課題を明らかにするとともに、現実的な改革案を提言していく。保険料や給付額、支給開始年齢の変更は、とかく加入者から制度不信の理由にされる。しかし、こうした調整をしているからこそ社会・経済の急激な変化に対応できるというところを、私たちは忘れるべきではないだろう。

教職員執筆の最新刊

●遠藤正寛（商学部教授）著

『北海道経済の多面的分析—TPPによる所得増加への道筋』

慶應義塾大学出版会／4536円（2014年8月）

●廣瀬陽子（総合政策学部准教授）著

『未承認国家と覇権なき世界』NHK出版／1512円（2014年8月）

●北中淳子（文学部准教授）著

『うつの医療人類学』日本評論社／2592円（2014年9月）

●鈴木孝夫（名誉教授）著

『日本の感性が世界を変える—言語生態学的文明論—』

新潮社／1404円（2014年9月）

●小熊祐子（スポーツ医学研究センター准教授）ほか著

『サクセスフル・エイジング—予防医学・健康科学・コミュニティから考えるQOLの向上』

慶應義塾大学出版会／3456円（2014年10月）

●松田隆美（文学部教授）、徳永聡子（文学部准教授）編

『世界を読み解く—一冊の本』

慶應義塾大学出版会／3240円（2014年10月）

慶應義塾この一冊

『福澤諭吉の政治思想』

小川原正道（法学部准教授）著

慶應義塾大学出版会／4860円
（2012年4月）



明治国家建設において展開された福澤諭吉の政治思想については多数の研究者が論じているが、本書では、これまで十分な検討が行われてこなかった議会論、憲法論、天皇論、外交論、華士族論、宗教論を分析。従来の研究において解決されていない点を明らかにし、福澤諭吉の政治思想の構築過程と構造、明治政府との相克を読み解く。

政治構想の実現を目指し、さまざまな駆け引きを行いつつ粘り強く挑戦し続けた福澤諭吉。その知られざる側面を描き出す一冊。